

歳入の主なもの

(100万円以上)

○町税

・町民税

(個人・現年課税分)

164万7千円増

・町民税

(個人・滞納繰越分)

444万8千円増

・町民税

(法人・現年課税分)

851万6千円増

・固定資産税(現年課税分)

4146万1千円増

・固定資産税(滞納繰越分)

144万円増

・町たばこ税(現年課税分)

153万3千円減

○配当割交付金

・配当割交付金

294万3千円増

○株式譲渡所得割交付金

・株式譲渡所得割交付金

671万4千円増

○法人事業税交付金

・法人事業税交付金

1151万1千円減

○ゴルフ場利用税交付金

・ゴルフ場利用税交付金

700万6千円増

○環境性能割交付金

・環境性能割交付金

359万9千円増

○地方交付税

・特別交付税

502万4千円増

○使用料及び手数料

・ぬくもりセンター使用料

121万9千円増

・リフト使用料

168万6千円減

○国庫支出金

・子どものための教育・保育給付費負担金

1776万3千円減

・児童手当負担金

339万8千円増

・しょうがい者自立支援給付費等負担金

573万6千円減

・デジタル実装タイプ

713万7千円減

・地域生活支援事業費補助金

110万8千円減

・新型コロナ定期接種ワクチン確保事業補助金

413万3千円減

○道支出金

・子どものための教育・保育給付費負担金

395万2千円減

・地域スポーツクラブ活動体制整備事業補助金

535万4千円減

・地域づくり総合交付金(教育費道補助金)

400万円増

・地域づくり総合交付金(商工費道補助金)

200万円増

○寄付金

・指定寄付金

1928万3千円減

○繰入金

・財政調整基金繰入金

1億4691万9千円減

・まちづくり基金繰入金

1077万1千円減

・産業づくり基金繰入金

197万円減

・農業振興基金繰入金

500万円減

○諸収入

・延滞金

177万円増

・スポーツセンター指定管理者負担金

337万2千円増

○町債

・環境衛生債

150万円減

・道路橋りょう債

1400万円減

▼令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第5号)について(令和7年3月31日専決処分)

保険給付費の歳出減額と、それに伴う財源の収入減により歳入歳出それぞれ5132万8千円を減額し、予算の総額を8億2592万1千円とするもの。

▼令和6年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第4号)について(令和7年3月31日専決処分)

後期高齢者医療広域連合納付金の歳出減額と、それに伴う財源の収入減により歳入歳出それぞれ615万1千円を減額し、予算の総額を1億6240万7千円とするもの。

額を1億6240万7千円とするもの。

▼令和6年度介護保険事業特別会計補正予算(第7号)について(令和7年3月31日専決処分)

・保険事業勘定

支払基金交付金の交付額

確定により、歳入歳出それぞれ272万8千円を追加し、予算の総額を10億8393万5千円とするもの。

人事案件

▼安平町教育委員会委員の任命の同意について

令和7年5月1日で任期満了となる守屋竜起氏を再任する同意を求めるもので、原案のとおり同意可決しました。任期は令和7年5月2日から令和11年5月1日まで。



もり やりゅう き
守屋 竜起氏(再任)

補正予算

▼一般会計補正予算（第1号）

新しい地方経済・生活環境創生交付金の内示による防災体制整備事業費の計上が主なもので、歳入歳出の総額に744万7千円を追加し、予算の総額を85億3703万3千円とするもので、原案のとおり可決されました。

歳出の主なもの

（100万円以上）

- 衛生費
- ・斎場・墓地管理経費

124万3千円増

○消防費

- ・防災体制整備事業

487万3千円増

歳入の主なもの

（100万円以上）

- 国庫支出金
- ・新しい地方経済・生活環境創生交付金

258万円増

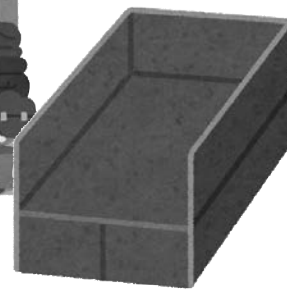
○繰入金

- ・財政調整基金繰入金

486万7千円増



段ボールベッド



▼介護保険事業特別会計補正予算（第1号）

- ・保険事業勘定

職員の人事異動に伴う職員手当の補正で、歳入歳出の総額に4万6千円を追加し、予算の総額を9億2562万2千円とするもので、原案のとおり可決されました。

町民センター視察報告

5月13日（火）に議員全員で改修した町民センターの視察を行いました。
現地では教育長と教育委員会の職員から丁寧な施設の説明を受けながら建物内を案内していただきました。



①建物の外観を見ながら概要説明



②1階の大集会室はきれいな体育館に



③2階の玄関から広々としたエントランスホールへ



④3階の洗面所も明るくきれいに



⑤3階の居室（4人部屋のようす）



よね かわ え み こ
米川恵美子議員

追分公民館、トイレ、蛇口、玄関ドア 人に優しい設備に改修を！ 足腰しゃんしゃん教室は 追分・早来交互開催高齢者福祉後退！

質問 追分公民館は文化的活動のみならず災害時の避難所になるため、人に優しい安全な場所であることが肝要。近代化のための改修費用を伺う。

答弁 和式トイレを洋式には220万円、手洗蛇口をセンサー付きは10台110万円、女性トイレにチャイルドキープ設置は2基15万円、玄関ドアを自動開閉ドアには240万円、駐車場から本館に上る階段への照明新設は計画していないが既存の街路灯の照度改善のためLEDにすると22万円。今後の改修計画を作り財政投資をしていく考え。

質問 改修計画はいつ頃作られるのか、財政的裏付けはどのように考えているのか、優先順位があるのか、全部改修するのかについて伺う。

答弁 緊急度、必要性を鑑みながら整理している。他の公共施設と整合性を図りながら、できるだけ早い段階で財政的な計画も擦り合わせながらやっていきたい考え。

質問 トイレに手拭きタオルを壁掛けに設置しているが不要ではないか。背の低い人や子どもでは手が届かない。ハンドソープを置いてはどうか伺う。

答弁 今年度は現状のまま進める。来年度に向けてエアータオル化、ハンドソープ等を検討していく。

質問 本館基礎の部分の塗装が剥がれ見栄えがあまりにも悪い。早く塗装直しをしてはどうか伺う。

答弁 経年劣化による剥がれ落ちを確認しているため冬期間越した中で修繕対応する。

質問 高齢者に対する生涯学習内容の企画、指導をする立場の職員は社会人としての道徳心をどのように心得ているかを伺う。

答弁 高齢者の皆様の学びの場として相手の立場を考慮することを大切にしている。

質問 ふれあい大学の学習内容を決定する場合の考え方を伺う。

答弁 毎年閉校式で実施しているアンケート調査によって参加者の意見、希望

を反映する企画を考えている。

質問 コロナ禍前には小学生とのふれあいの企画があり、共に楽しみ、やりがいを感じる事業があったが今後検討の余地はあるのか、また、地元のことを勉強する企画もお願いしたいがいかがか伺う。

答弁 いろいろな意見を踏まえて事業計画を組んでいる。今後も幅広い意見をもとに充実した事業にしたい考え。

質問 足腰しゃんしゃん教室の実施状況が変更になったが元に戻してほしいとの声が追分、早来両地区から届いているがいかがか伺う。

答弁 早来学園とぬくもりセンターにおいて毎週火曜日交互に開催している。会場を選ばなければ毎回参加可能。町の高齢者人口2680人に対し、参加者は80人程度。今後は住民主体の介護予防施策に取り組む。4月からせいこドームのトレーニングマシンを活用し筋力向上を目的に事業を実施している。

質問 地域生活支援活動推進事業と地域支え合い事業交付金を活用した事業の内容と活用状況を伺う。

答弁 交流訪問健康事業、住民福祉活動事業、見守り啓発交流事業、地域福祉啓発事業等に7万円を限度に交付している。令和6年度は延べ30件142万4907円交付している。

質問 戦没者慰霊と平和教育について伺うが、慰霊祭はしない。慰霊碑建設はしない。戦没者名碑も建設しないとの考えに変化はないのか。また、平和祈念のための派遣事業については意義あると思うため、暑い時期を避けて続けてはどうか考えを伺う。

答弁 慰霊碑等の建設の考えはない。社会福祉協議会においても建設の考えはないとのこと。平和教育の関係については再構築しながら令和7年度は取り組む考え。広島派遣についても今年度は検証しながら、来年度以降の取り組みとして活かしていきたい考え。



とりごえ まゆみ
鳥越真由美議員

追分地域の現状と課題

追分中心街の課題 追分地区各施設の現状と公営住宅について 追分の学校づくり

質問 北海道銀行追分支店

移転後の建物について、今後の扱いや住民要望が多い郵便局が移転する形などの相談はあるか。

答弁 追分支店の場所は追分の中心部ということもあり、要望があるということ

は理解できるが民間企業の案件のため現段階で説明できる内容はない。今後、道銀側から相談がありましたら町として適切に対応していきたい。

質問 道銀の移転はインパクトが大きく、メイン通りで閉店する店舗が増えている中で、今後の町の在り方については。

答弁 今年から2か年で第3次安平町総合計画を策定していく。今回の課題が町の商店街中心とした大きな課題の一つであると認識、引き続き対応を行っていき

質問 農業未来塾について

の現状と今後の方向性は。
答弁 当面はパークゴルフ場の施設と位置付け、維持管理を行っていく。

質問 新規就農者住宅のり

フォームについて、今後の計画は。

答弁 大規模なりフォーム計画はないが建物の状況に応じた修繕対応により現状維持したい。

質問 南公営住宅の空き室の解消策、特公賃としての活用の可能性とスケジュールを伺う。

答弁 南公営住宅の6月現在全体入居率は68・75%。追分地区のアパートの空き室が少ないことを考慮し、以前からも意見が出ていた

ので、試験的にみなし特公賃として使用する。今後、北海道への事務手続きや規則改正を経て8月募集を目指す。

質問 学校づくりは様々な配慮が重要だが今後の考え方の中で関係者とのコミュニケーションの方法とスケジュールは。

答弁 追分中学校の長寿命化改修が必要とされる令和14年を一つの目安として基本構想の検討を進めていきたい。今後の検討の基礎とするため、子どもたちにとつて望ましい学び、育ち

の姿、追分地区に相応しい学校のコンセプト、追分地区全体の教育環境の在り方、文化エリアとしての追分の特性を活かした教育の可能性についてを追分中学校運営協議会への諮問を行い、第2回定例教育委員会において承認された。追分の学校を考える会については、開催前に事務局において、追分地区住民及び団体、子育て世代、教育事業関係者、在校生、教職員等に町内関係者の声としてヒアリング、9月上旬に説明会を行い、5回程度協議の上、今年度中に学校運営協議会に報告を想定。今回の学校づくりは建物に関わらず、追分の学校についてコンセプトと方向性を議論するもの。

質問 今、在席している子どもたちからの意見の集約と取り扱いは。

答弁 端末を使うなど、オンラインとオフライン、発達段階に応じて意見を募り、子どもたちからの意見を最大限取り入れていきたい。

質問 今いる子どもたち、これから加わっていく子ども

たちが考えた予算があつてもいいのではないか。

答弁 予算については検討していく。最後の決定についてはきちんと手順と決定の機会があり予算や全ての意見を採用できるか等もあるが、しっかりと意見表明の場を設置していく。

一般質問を終えて

早来地区には新しい学校が出来た。チャレンジショップがある。遠浅、安平の両地区には人を配置し、仕組みを作り、地域を支えている。道の駅は町内全体の事業者にとつても大切で必要な場となつてきていると感じている。

さて、次は追分地区。何が足りないのか。継続できる街並みとは。課題が増えているのは確か。歴史を作ってきた今いる人々の安心につながるような努力をしていきたい。



たか やま まさ ひと
高山正人議員

安平町におけるラピダスの対応について

人口増や経済効果、期待する町民に応える政策展開を求めて
安平町としてビッグチャンスをとどのように活かすか
政策の進捗と方向性

質問

企業誘致に関して、令和6年度町政執行方針には「川・経済・産業」の項目でラピダスに関連した記載があったが、令和7年度の同項目には記載がないが、今後具体的にどのような誘致を進めるか伺います。

答弁

令和6年度の町政執行方針には2か所記載、令和7年度は5番目の生活環境・生活基盤の中で、住宅需要対応策として、民間空き地、空き家の活用と併用させながら移住定住事業のセットメニュー及び民間賃貸住宅助成等を展開し、企業誘致に関しては現在可能な土地は、追分地区は民有地であり、遠浅地区は基盤整備がなされておらず加えて水問題があるため誘致活動は行いが土地条件等の現状をご理解いただきたい。

質問 経済産業は特に重要政策であり町政執行方針に残すべきではないか。町長からラピダスに関して情報発信はされているが20年後本町がどのように存在し動いているか危惧している。今回の大きなチャンスを逃

さないよう乗り遅れず対応してほしい。総合的に動かすべきで、町民もすぐ期待をしている。町政執行方針に記載がないと経済産業の分野で違ってくると思いますが考え方は。

答弁 町政執行方針は軌道に乗った政策は特別登載せずに常に新しいものを表現している。例えば令和6年度に登載されていなくてもすでに約束しているものなので、進めていくとの認識です。今の段階では、ラピダス関連企業の方が早く来るかもしれないので、令和7年度では住宅地政策をスビード感を持って前倒しをして進めたい。

質問 1市4町の定住自立圏及び千歳・苫小牧地方拠点都市地域整備推進協議会でのラピダス対応協議は、どのようになっているか伺います。

答弁 千歳・苫小牧地方拠点都市整備推進協議会におけるラピダス関連の動きは、日程の都合上書面総会とのことで意見交換や現地視察という予定なし。1市4町

定住自立圏について同じ枠組みで構成される苫小牧地方総合開発期成会の対応については、毎年国や北海道へ要望活動を行っている。

令和6年度の要望書に、ラピダス周辺自治体の課題、インフラ整備、住環境の整備等の課題解決と水の確保、きめ細やかな情報提供等について共通課題として北海道、胆振総合振興局と本町で、道庁と地元選出の国會議員に要望活動を行っている。

令和7年度は安平町開催の総会で苫小牧市長からラピダスに関する情報提供を改めて圏域が一体となり、問題解決に取り組むことを確認。経済効果を波及するための支援を胆振総合振興局に要望を行っており、引き続き国や道等へ要望を行う予定です。

質問 各自自治体の課題はそれぞれ似たようなものが多いため、要望だけで終わっている印象。ラピダスの試験的な操業を始めている中まだ要望しなければならぬ状況は、タイミングが悪く動きが遅いと思うが行政

の認識を伺います。

答弁 試作品は今年4月から動き始め、実際に関連企業が張り付いてくるのは試作品が完成して量産に入り、うまくいった2年後という話でその前くらいかと考えている。そこへ向かって地元の懸案事項をあらかじめ整理して国に要望しているという流れで動いている。

質問 役場庁舎内のプロジェクトチームを立ち上げる方針があるか伺います。

答弁 これまで非対面での情報共有を行ってきた庁舎内の連絡体制は、議員各位からのご意見やラピダスの試作ラインが稼働したことを受け、本年5月28日に対面型の庁舎内組織「安平町次世代半導体産業連絡調整会議」を立ち上げ第1回目の会議を開催し、構成は特別職、関係する課長の合計16名。当初計画に対する進捗状況、実績の共有、各課で把握している情報を共有している。